

週刊新社会
 発行所：新社会党
 〒104-0006 東京都中央区日本橋富沢町7-9 京桜興産ビル3F
 TEL 03 (5643) 6002 FAX 03 (3639) 0150
 振替 00140-0-149727 1ヵ月600円 郵送料1ヵ月160円

新社会ちば

2012年12月 123号
 発行：新社会党千葉県本部
 千葉市中央区新千葉2-1-1 新千葉ビル401
 TEL 043-244-6865 FAX 043-244-6864
 E-mail:sinsya@lily.ocn.ne.jp
 HP URL:http://www1.ocn.ne.jp~nsp/

衆議院議員選挙では 再稼働に「反対」の候補を

反消費増税・反TPP・改憲阻止 「脱原発」の社会づくり 党と「活かす会」で政策の勉強会

衆議院が解散され、12月4日公示、16日投票が決まりました。2009年8月の総選挙で「国民の生活が第一」を掲げた民主党が勝利し、政権交代が実現して3年余が過ぎました。しかし、民主党は当初掲げたマニフェストをかなぐり捨てて、「消費増税」への道を開き、さらに「原発再稼働」を国民の声を無視して強行しました。野田内閣への支持率は18%にまで低下し、民主党からの離党者が相次ぐ中で「解散」に追い込まれました。各党・各候補は「離合集散」を繰り返して、雨後の竹の子のように新党が結成され、第三極に向けた動きが活発になっていきます。

こうした情勢下、党千葉県本部と憲法を活かす会千葉県協議会は、11月27日に千葉市内で「各党の政策研究と討論会」を開きました。冒頭、新社会党中央本部の長南書記長から党の選挙闘争方針の提起を受けたあと、各党の政策について参加者からの報告をもとに活発な討論を重ねまし

原発に依存しない社会

今回の総選挙は、①脱原発、②反消費増税、③反TPP、④改憲阻止などが政治的争点として挙げられています。とりわけ、昨年の3・11東日本大震災・福島第一原発事故を受

けて、今後「どんな社会をめざすのか」が問われています。討論の中では「原発に依存しない社会」を早期に実現することが確認され、「脱原発候補」を集中して応援することになりました。しかし、脱原発の世論が8割を超えているため、各政党は表面的には「脱原発」や「原発ゼロ」を掲げています。しかし、掲げないのだまされる危険性があります。判断する基準は「原発の再稼働に反対」するかどうか、確な目で「脱原発」候補を選出しなければなりません。また、尖閣・竹島問題に見られるように、ナシヨナリズムをあおりつつ、軍備増強・憲法改「正」に向けた超右翼的政権をめざす安部自民党、維新の会など、警戒しなければなりません。「脱原発社会」を実現し、反消費増税、反TPP、改憲阻止を中心とする候補には共同して全力をあげることを確認しました。ともに頑張りましょう。

「うそつきのおまい奴ほど票をとり」。美辞麗句のセールスが始まった。政治家の口約束ほど当てにならないものはない。生活に追われる庶民は、公約などいちいち調べてるヒマなぞないが、意外にシッポは露見しているものだ▼自民党の「国防軍」構想、誰が膨大な金を出すの？口先だけだった民主党。どちらも庶民の生活は二の次だと、はつきり知れた▼残る選択肢は少数党に投票するしかない。しかし、最多得票者の一人以外、みな落選する小選挙区制では、少数党への投票は「死票」になってしまう。だから棄権しても同じという意見もある▼だがそうだろうか。第一党のAに投票してきたあなたが棄権するとAが一票減るだけだが、その票を第三党のCに投票すると、Aが一票減り、Cが一票増えて、AとCの票差は二票になる。Aに対する批判は倍増するわけだ。みながそうすれば大きな世論となる。死票を恐れず、信ずる党に投票しよう。

全国一斉労働相談 千葉総支部でも取り組む

新社会党千葉総支部は、全国一斉労働相談の一環として、12月3日・4日の2日間にわたって、労働相談窓口を開設しました。



相談所

当日は、数名が交代で事務所に待機し、相談に備えて、DVDを見たり、労働相談の事例を研究する計画でした。

相談の1日目には、早速、パートで時給900円、8年働いているという千葉市内の主婦から、「これまで

は1か月前までに申請すれば休暇がとれたのに、今回は印鑑を押した誓約書を求められた。親の入院で9日間休まなければならず、求めに応じた。有給をとるのにこんなことであるのでしょうか」と相談がありました。また、クリーニング店

千葉・柏総支部が大会 千葉は秋葉委員長に

新社会党千葉総支部は11月23日に千葉市内で第16回定期大会を開きました。



秋葉新委員長

衆院選と東京都知事選では「脱原発」候補の勝利に向けて取り組むことを確認しました。

また、これまで15年間委員長を担ってきた半澤さんが退任して顧問に、新委員長には秋葉さんが選ばれまし

を任されているという女性のご主人から、「給金の契約があやふやだ。」「自転車転倒で骨折。」「社長が怖くて心身不安な状態だ。」との相談もありました。

これらの相談に対して、本人と直接会って話を聞き、今後の扱いを検討することになりました。

また11月4日には、柏総支部が定期大会を開き、県本部大会で提起された党員拡大や機関紙拡大について活発な討論が行われました。

県本部機関紙委員会 囲碁・将棋で交流会



有段者や愛好者などで対戦を楽しんだ。

千葉県本部機関紙委員会では、12月2日、第10回囲碁・将棋交流会を開催しました。

この交流会は、今年で10回目を迎え、すっかり定着した感があります。そのせいか、事

前に申込書を出さず、会場に直接こられた方も多く、急ぎよ対戦数を増やすなど、事務局を嬉しい悲鳴で慌てさせました。

今回は、将棋のプロ棋士、有野芳人7段を招き、ご指導をお願いしました。

表彰式の後の交流会では、スタッフ自慢のトン汁で酒を酌み交わし、自己紹介や対局の感想など、先生ともども懇親を深めました。

また、この交流会では新聞「週刊新社会」の読者が一人増えました。

放射能からどう健康を守るか

「市民のつどい」が学習会を開く

「第4回平和を願う市民のつどい」が11月10日、千葉市内で行われ200名近い市民が参加し、原発の問題について学習しました。

千葉市は、24年前に市民の運動で、平和都市宣言を行いました



が歴代の保守市長はほとんど平和を願う行事を行いませんでした。そこで宣言から20年の節目になる4年前、「千葉市が平和を願わないがしろにするなら、市民の力で平和行事を行い、平和を発信しよう」

と市民の有志が実行委員会を結成したもので

今年、「市民が健康で安心して生きて行くために放射能汚染の中でどう健康で生きて行く」ことを学ぼうと言う趣旨で行われました。

二元国会事故調査委員の崎山比早子さんか

ら、「放射線からいかに健康を守るか」との基調講演を受け、続くパネルディスカッションでは、東海村議の相沢一正さんが東海村での脱原発の運動を、「ちば市民放射能測定室、しらべル」を開設して、

市民の健康を守る活動を行っている長谷川さんが、千葉市内の汚染の状況と活動の報告を、もんじゅ訴訟の福武弁護士がコーディネーターとなって討論が行われました。

また、熊谷千葉市長も来賓として参加。「こ

うした市民の運動を広めてほしい」と激励のあいさつをしました。

参加者からは「沢山の勉強をしました。

もっと多くの市民に参加して欲しかった」「これからもこうした運動を続けて」との感想が寄せられました。

実行委員会で集いの模様をDVDに収録しました。参加できなかった市民に頒布しています。憲法を活かす会千葉県協議会でも取扱っています。

(043-244-3860)

微生物の働き



11月11日の日曜日、ファームげんのじょうの収穫感謝祭が行われました。今回で13回目を数えます。

東京から来たという親子も含めて、120人を超える参加者があり、会場はメインのバーベキューの煙でいっぱいでした。

12時ちょうどに始まり、主催者の秋鹿好生さんのあいさつのもとにさつそく乾杯。盛りだくさんのご馳走とビールやお酒をいただきながら、成田の石井さんから「EM農法」で栽培しているという家庭菜園のお話をききました。

EM農法 エフェクティブ(有用)マイクロオーガニズム(微生物群)ということ、微生物と

いっても細菌のこと。要するに「善玉菌」の働きを利用するということです。

この目に見えない小さな生き物の働きは目

覚しいものがあり、高い抗酸化力によって今や農業・畜産のみならず、水質改善や環境対策など、我々の知らない所で大活躍をしているというのです。

実際に家庭菜園で収穫したという生姜を見せてもらいましたが、それは店で売っているものよりは4〜5倍は連なっている、見事な出来栄でした。

EMの入ったピンはホームセンターでも売っていて、簡単に手に入れることができるようですが、使用上の注意書きをよく読んでからにしてください、とのこと。

お腹がいっぱいになった後は恒例の「ジャンケン大会」です。先ほどの生姜も景品の一つとして出され、その他お米や、お宝鑑定団で出されるような壺、トマト、サツマイモなど、大人も子どもも大張りきりでした。外では粉殻を焚いて焼いていた「焼き芋」が程よく出来上がり、みんな熱々のものを手で転がしながらほおぼっていました。まさに収穫に感謝・感謝でした。【菅原】

期間雇用社員の「雇止め問題」未払い賃金を支払わせる 千葉スクラムユニオンも協力



佐倉支店前抗議のビラ配布

郵政産業労働者ユニオンと千葉スクラムユニオンは、日本郵便株式会社佐倉支店における、期間雇用社員3人の雇止め問題の解決に向け取り組んできました。

現在の労働法制で雇用継続を求めるといふことは極めて不利な状況にあります。

しかし、この取り組みを1年以上続けるな

か、郵便や小包などを配達している社員(非正規雇用の社員が多く含まれる)が、始業前に作業指示を受けたら、休憩時間も休めない、あるいは勤務カードの改ざんの事実など不当な働き方が行われており、これに伴って未払い賃金があることが明らかになりました。

労働組合として、団体交渉を重ねたり、労働基準監督署に相談もしました。その結果、会社にこの事実を認めさせることができました。

約300名の対象者のなかで、87名が未払い賃金の支払いを求めました。しかし、会社

が一人ひとりと面談を行った結果、11名を残して他の76名は請求を取り下げてしまいました。組合では、「非正規雇用という弱い立場の労働者が会社幹部と一人で対応するのは大変むずかしい、ほとんど恫喝と同じでしょう」と述べています。

それでも、労働基準監督署によると、総額300万円ほどの未払い賃金が支払われたとのこと。

最近職場では、配達物を間違えて配達すると、業務命令で右肩に大きな赤いリボンが付

けさせられます(レックカードと言われている)。ゆうパック配達者に対しては車の助手席に地図を置かせない。昼には局へ帰れという非効率な指示。また、集配職場では床の上にテープで印をつけ、そこに並ばせての郵便体操。これらの違反に対する見せしめとして、オートバイから自転車による配達指示がされます。佐倉では坂道が多く、自転車での配達だと1時間半もかかる場所もあり、仕事の実情を全く無視した作業指示と言わざるを得ません。

組合活動に対する報復とも思える、このような事態に耐えかねて

多くの人が職場を去り、配達現場で欠員が出ています。このままでは、お歳暮の大規模遅配や年賀状の元旦配達すら危うい状況だと組合は訴えています。

国策会社ともいえ、日本有数の大会社

「日本郵便株式会社」は、働く人たちに對して、働き甲斐のある労働を提供し、経済的にも満足できるように人間らしく扱い、そのことによっても社会に對して貢献すべきです。

新社会党千葉県本部
新春のつどい
 京成労働会館 京成津田沼駅から徒歩7分
2013年1月19日(土)
13時開会
13時30分から「講演会」
15時から「新春のつどい」
詳細については準備中